京都発NPOです ⑬

太陽光発電は生き方の表現

きょうとグリーンファンド

―設立の経過と活動内容は。

「北海道で軌道に乗っているグリーンファンドの話を聞き、**京都でも自然エネルギーを広めたいとの願いで結成しました。**さまざまな環境グループの有志が集まり、活動を始めたばかりです」

「一般家庭の電気料金の五%程度にあたる年間六千円を基金として募り、たまったお金で太陽発電パネルを取り付ける活動が中心です。まめにコンセントを抜いたり電灯の消し忘れに注意すれば、五%ぐらいは簡単に落とせるはず。日本中の人がそうやって節電すれば、百万キロの原発三基分の電気が節約できます」

―先日、初めてのソーラーパネルを取り付けましたが。

「年間六千円の基金とは別に、今回は一口五千円で賛同者を募って第一号のパネルを取り付けることができました。いろんな人たちの思いが形になったこと、**自分の手で電気が起こせるんだって喜びを感じられること、本当にうれしく思います。**太陽光発電は、どのような社会を子どもたちに残したいかのメッセージ。一つの生き方の表現だと思います」

「太陽光発電を利用することで節約できた部分の電気代については、ファンドに寄付してもらいます。電気代の節約だけが目的ではなく、そうやって少しずつ基金を増やしていくことで自然エネルギーの輪を広げていければ」

―今後の目標は。

「まずは会員をもっと増やしたい。京都で最も取り入れやすい自然エネルギーは太陽光発電だが、システムを取り付けるには、一基三百五十万円かかる。テレビや新聞で環境のことが問題になっているけれど、知識はあっても自分の問題としてとらえてくれる人は少ないと思います」

「関心はあるけど、どうすればいいのか分からないという人も参加しやすいシステムを広げていきたい。そんな願いから、年間六千円の基金を、来月から毎月五百円ずつ引き落としできるようにしました。**無理をせずみんなができることが活動を持続するポイントではないでしょうか**」

「保育所や幼稚園など、子どもとかかわりの深い施設に太陽光発電を普及できれば。これからの世代を担う子どもたちに、自然エネルギーのことを分かってもらいたい。それは大量のエネルギーを消費してきた大人の務めだと思います」

龍池（りゅうち）　妃都美（ひとみ）さん（理事長）

データ　地球温暖化や原子力に疑問を持つ人たちが集まり、1999年1月から準備を始め、昨年11月にNPO法人認可。府内を中心に約70人の会員がいる。郵便局からの引き落としを利用しても基金を拠出できる。連絡先は☎075（241）0550。

第1号の太陽光発電パネルに賛同者の名前を書くメンバーたち（京都市左京区・法然院森のセンター）